

懐かしい広島

平成 27 年 10 月

8 月 15 日広島の「原爆慰霊祭」中継を見て、ふと思い出したのである。

私が広島を訪れたのは戦後 12 年、昭和 32 年 9 月 30 日、確か台風一過の日であった。

草津発「三原口」行の夜行（鈍行）に乗る。車窓から見る満月は澄み切って瀬戸内海は月夜で明るく見えた。広島に早朝到着。

勿論アルバムを引張り出しての話である。写真を見ていると「原爆ドーム」「慰霊塔」の前などを思い出す。宿泊した旅館の前は復興途中で市電の敷石が山積みであった。

そもそも親爺が指物師（建具）という職業がら、玉野三井造船所の木工部に徴用されたのである・私は 6 人兄弟の三男坊でただ一人岡山・玉野市生まれである。

昭和 20 年終戦と同時に草津へ帰って来たらしい。当時 4 歳である。

さて、話は戻して、広島へ行ったのは、八商時代弁論部に所属しており、全国高等学校優勝弁論大会に出場するためである。

会場は広島修道院学園大学である。当時八商の弁論部は結構活躍しており、先輩達の入賞者が多かったのである。

本番で各校の代表生徒を見ると何故か気後れしてしまうことが良くある。

大会の採点基準は原稿用紙（400 字詰）5 枚、持ち時間 7 分、文章内容、音声、態度の 5 項目である。

今大会は 4 5 校での出場である。評判は奈良智弁高校、高知明德義塾高校、京都平安高校など関西勢は活発で強敵ばかりである。入賞は 8 位まで、八商は 5 位に入賞できた。

大会までに愛知学院大学、甲府第一高校等で経験しているので度胸は決まっていた。

私の演題は「蚊の泣き事を全世界に」という内容で世界平和をテーマにしたものだった。

終了後、全員で撮った記念写真を見ながら優勝した高知明德高校の彼も恐らく 7 3 歳になったであろうと感慨に浸った。

戦後 70 年、「原爆慰霊祭」を見ていなかったら懐かしい広島を思い出せなかったと思う。

奥村 次雄（春日部在住・草津市出身）